

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年12月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670600172
法人名	有限会社 ふれあい
事業所名	グループホーム ポンタ
所在地	鹿児島県阿久根市赤瀬川4295番地 (電話) 0996-73-4348
自己評価作成日	令和6年10月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食の町阿久根で食事の提供について、利用者が食べ慣れた味を聞き取りながら、職員が手作り味噌や、季節感・郷土感のある食材を調理し、美味しく食べてもらえる様務めている。
コロナウイルス感染症が一段落し、家族や知人の面会も15分程度ではあるが再開でき、利用者と家族の良好な関係を構築できるよう、ホームと家族のコミュニケーションも大切にしている。集合しての家族会は実施できていないが、利用者の状況を手紙で家族に報告し、家族の思いを聞き取れる様務めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は広域医療センターに近い集落に立地し、広い畑や果樹が室内からも見渡せ、身近に季節を感じられる環境である。利用者にも作物や果実を眺めたり旬の物を味わってもらえるよう取り組んでいる。
- ・コロナ禍以降、地域との交流の機会が減少した上、外出を嫌がる利用者もある中、市の巡回図書館の紙芝居を室内レクリエーションに利用したり利用者も本を借りて楽しんでおり、地域資源を有効活用している。
- ・玄関やテラスでの家族との面会を再開し交流を支援している。職員は面会時に家族との写真を撮って喜んでもらう等、家族との関係が途切れないように取り組んでいる。
- ・フロアは全体が見渡せる造りで、職員間で連携して利用者を見守るとともに、できるところは自分で、できない所を職員が支援する等、利用者の残存能力維持に努めている。
- ・施設長・管理者は、入浴支援の時間帯を見直したり、休憩時間確保等、業務改善を行い、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は毎日の申し送り時に共有され実践できている	理念は玄関に掲示し、重要事項説明書にも掲載している。申し送り時に理念を唱和して確認するとともにケアの振り返りも行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	面会制限があり地域とはコロナ禍以前のような交流は行えていない	市の行政無線等で地域情報は得ているが、コロナの感染予防のため地域との交流は控えている。地域住民からの新聞紙や野菜の差入れ時の交流は継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	面会制限もあり地域貢献等の活動は行えていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	資料で開催していたがコロナウイルス感染状況が落ち着き対面で開催したが、地域の感染が増え資料での開催に戻している	2ヶ月に1回の会議を実施し、対面開催時は事業所の状況報告と意見交換を行っている。他の事業所及び地域行事等の情報を得たり、委員に事業所の取り組みを理解してもらう機会となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	必要時は連絡を取り意見をもらい連携を図っている	市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換や報告・相談に窓口に出向き連携を図っている。市主催の研修会に参加している。施設長がキャラバンメイトとして市の講習会講師を務めたりしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、事業所内での身体拘束の有無を確認し、入浴時間と夜間帯を除き基本的に玄関の施錠はしない対応をしている。	指針を作成し、委員会を3ヶ月に1回、研修会は年2回実施している。夜間及び昼寝時にベッド柵使用の事例があり、主治医と連携してやむを得ず行う場合の手順を徹底している。玄関の施錠はせず、外に出たい利用者には職員が敷地内等の散歩に同行し、行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本年9月に鹿児島県権利擁護推進員養成研修を受講し高齢者の権利擁護と虐待防止に向けた勉強会を実施した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	昨年1月に阿久根市成年後見制度利用促進計画に基く研修会に参加し、成年後見制度の活用と後見人の役割について理解を深めた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は重要事項説明書で説明し不安なく利用して頂けるように心掛けている。介護報酬改定の際は文書で説明し同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の会話、面会時等で意見要望を確認し運営に反映させている	利用者には日々の関りの中で要望を聞き、必要に応じて家族にも伝えている。家族からの要望は電話や面会時に聞いてその都度検討し、散歩や家族との外出等は要望に沿って取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り時やその都度話をして	申し送り時や業務の中で随時意見等を聞いて反映できるように努めている。入浴支援の時間を考慮したり、休憩時間を確保する等、業務改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護従業者処遇改善加算を取得し職員の給与水準向上に努めている。また、有給休暇取得の向上に向けた職員の勤務シフトの配慮に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は1名認知症介護実践研修を受講してもらい、事業所内実習で認知症への知識理解向上と職場内の課題解決の取り組みを実践した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会等はなく交流は出来ていない		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に不安な気持ちに寄り添いどのような思いがあるのかを確認しながら少しでも早く慣れて頂ける様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前から可能な範囲でホームに来て頂き分からない事や疑問に思った事を丁寧に説明して関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の意向を確認し出来る限り対応できる様に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の支援をしていきながら本人の出来る事を尊重し共に協力しながら生活が送れる様に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子や変化時等を連絡し、協力頂ける事はお願いしご家族との繋がりを大切にしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会や外出等感染対策をしながら支援している	家族・知人との玄関やテラスでの面会や電話での交流を支援し、面会時には家族との写真を撮っている。家族の希望に沿って外出にも対応し、これまでの関係が途切れないよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や状況を把握しながら利用者同士が円滑に交流出来る様に支援している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子を確認したり必要に応じてフォローを行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントや日常の会話の中で本人の思いや意向を確認している。必要に応じてご家族に相談している	日常生活の中で、また利用者間の会話等を含め、本人の思いを把握できるよう努めている。困難な場合は、家族や入居前の利用サービスからの情報を参考にしたり、本人の表情等から推測して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・御家族・入居前のケアマネージャーから確認し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネージャーと職員でアセスメントを共有し日々のケアの中で現状を把握している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿ったケア計画を作成し状態変化時は職員と意見を出し合い見直しを行っている	本人や家族に希望やケアプランの意見を聞き、ケアカンファレンスで検討して介護計画を作成している。モニタリングを6ヶ月毎に実施し、状況変化時に見直して現状に合った計画にしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は細かく記入し日々の様子を記録等で確認し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでは他のサービスを活用することはコスト面で難しくホーム内のみの支援となっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在も地域との関りは持っていないので内容を検討しながら支援していきたい		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全員協力医療機関を職員が同行し受診しているが希望があれば入所前のかかりつけ医の受診を支援する	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、現在は全員協力医療機関を職員同行で受診しており、歯科は必要時の受診対応である。事業所配置の看護師による健康管理が行われており、夜間は広域医療センターの協力を得ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は看護職員に状態変化時は報告し必要時は受診の支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院施設の医療連携室と連携し退院時の受け入れに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から重度化・終末期の意向を本人とご家族から確認し状態変化時もその都度書面にて確認している	契約時に重度化等の場合の対応について指針で説明し、同意書をもっている。要介護3以上で主治医と協議の上説明をしている。身体状況を見ながら家族の終末期の選択を確認し、意向に沿って支援に取り組んでおり、特別養護老人ホームを選択する家族が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを整備し、職員へ周知している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した消防避難訓練を消防署指導で実施し、現在はコロナの影響で控えているが、以前は近隣住民の参加も呼びかけ避難誘導や初期消火訓練を実施していた。	年2回夜間想定で火災避難訓練を実施し、1回は消防署の立ち合いを受けている。近隣住民に訓練を知らせているが、コロナ禍以降の参加はない。事業継続計画（BCP）は策定予定である。非常用の備蓄は、2日分の水・3～4日分の缶詰・カップ麺・レトルト食品等を準備しており、飲料以外に使用できる井戸水もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の支援の中で言葉使いや支援内容を検討しながら尊厳を損なわない様に配慮している	研修を実施し、利用者に合わせて方言で話したり、馴れ馴れしくない言葉遣いに努めている。排泄・入浴介助は羞恥心やプライバシー確保に配慮し、申し送りは利用者に聞こえないようにして行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で可能な限り一人一人の希望等を聞き希望に添える様に支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるがそれぞれのペースに合わせて過ごして頂ける様に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出時や希望時に好みの衣類を選べるように支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事で食べたい物を聞いてメニューにしたり、ホームの畑で収穫した野菜の下ごしらえをお願いし提供して食事を楽しんで頂いている	利用者の希望を聞き、差入れや収穫した野菜の下ごしらえを一緒に行って、ミキサー食・刻み等、個々に応じた形態で提供している。誕生会や行事食の特別メニュー・バイキング・仕出し弁当等で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や摂取量に合わせて食事量や食事内容・形態を変えて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面台に誘い口腔ケアを行い必要な支援をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し出来る限りトイレで排泄出来る様に声掛けなど行っている	日中はトイレでの排泄を基本に支援しており、排泄チェック表で把握した時間で声掛けし、トイレでの排泄ができるように取り組んでいる。リハビリパンツとパット併用が主で、夜間もトイレでの排泄ができています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認しながら水分を促がしたりヨーグルトを提供している。主治医に相談し適切に緩下剤を服用して頂いている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決まっているが体調や本人の意思を確認しながら支援をしている	週3回午前中に入浴を支援しており、浴槽使用で個浴を楽しんでいる。シャワー浴もある。入浴を嫌がる利用者はいない。汚染時はシャワー浴を行い清潔に保つようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状態に応じて休息の支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で服薬内容や効能を確認し服薬時は見守り必要な介助を行っている。必要時は主治医に相談し指示をもらっている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所の課題として取り上げたリクリエーションについて、身体的精神的効果への理解を深め、バリュエーションを増やす事で、利用者の興味や自発性を引き出すよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	面会制限もあり外出支援は出来ていないが要望があればご家族に依頼をしている	天気の良い日は敷地内や近隣の散歩を声掛けしている。年間計画を作成し、初詣や季節の花見のドライブに出かけているが、外出を嫌う利用者もいる。できるだけ外気浴ができるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいらっしやらない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の依頼があれば取りついでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい様にソファの配置換えや温度湿度計を確認し空調調整を行っている。テラスや台所の窓から季節の花や景色を眺め楽しんで頂いている	ホールは空気清浄機や加湿器・エアコン・カーテンを使って過ごしやすい室内環境に調節しており、時間毎に窓を開けて換気を行っている。室内は季節の飾りつけをして、室内から畑や花壇を眺められる。利用者が好きな場所でくつろぐことができるようソファを配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士ソファで話せる様に座ってもらい部屋で過ごしたい方はゆっくり休める様に支援している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や家族の写真を飾り安心して過ごせる空間作りに努めている	居室にはベッドやクローゼット・エアコンが備えてあり、使い慣れた寝具やダンス・ラジオ・写真等を持ち込んで安心して過ごせるようにしている。巡回図書館の本を借りて楽しんでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はワンフロアで見守りが出来何かあれば声掛けし安全に過ごせる様に支援している		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない